

土木学会におけるインタビュー資源活用方策の提案

東京工業大学 正会員 ○山田 菊子
 (株)建設技術研究所 正会員 米山 賢
 鹿島建設(株) 正会員 須田 久美子
 早稲田大学 正会員 佐々木 葉

1. はじめに

土木学会でも様々な委員会などがインタビューを実施している。インタビューの記録は、当事者の声を生き生きと記録した情報量の多い貴重なものであるが、現時点ではそれぞれの主体が独自に実施し公開しつつ、貴重な記録の蓄積が進められている。そこで本研究では、土木学会によるインタビュー事例を収集し、その意義と課題を把握した上で、課題への対応方策を提案する。

2. インタビュー調査の実態

公開されている情報を調査したところ、土木学会による5つの事例で105件のインタビューが行われたことを把握した(表-1)。インタビューの対象者はNo.4を除き土木技術者、あるいは会員であり、No.5を除き、インタビュー結果はテキストとしてウェブサイト、あるいは書籍に公開されている。公開されているテキストはいずれも要約されたものであり、文字起こし(トランスクリプト)はない。No.5を除き、音声、映像記録の存在については、公開されている情報からは把握できない。No.2は外部のウェブメディアに、No.3は書籍としても公開されている。

No.5は著者らが所属するダイバーシティ推進委員会¹⁾の取り組みである。2018年度より「女性土木技術者のオーラルヒストリー」と題したインタビュー調査を開始した。土木界では少数派である女性技術者の先駆けとなる方々を対象とし、2時間程度のインタビューにおいて、キャリアの全般にわたるキャリア継続の課題とその解決方法を題材として聞き取りを行なっている。本報告執筆までに4名(行政2名、建設コンサルタント1名、大学1名)のインタビューを行ない、テキスト、音声、映像の記録を得た。第1回のインタビューを実施後、ユーザー調査の専門家とともに実施方法を提案し、聞き手の候補者を対象とした講習を行なった。今後は土木学会5か年計画のプロジェクトの一環として、オーラルヒストリーの記録、蓄積、分析を行うこととしている。

表-1 土木学会の委員会等によるインタビュー事例

No.	インタビュー名称	概要	件数	公開されている記録媒体 ¹⁾		
				テキスト	音声	映像
1	シニアに学ぶ「退職後の輝き方」	企画委員会成熟したシビルエンジニア活性化小委員会による、シニア会員を対象としたインタビュー。生い立ち、各年代における考え方や行動の変化を聞く。	23	○	--	--
2	土木辞めた人、戻ってきた人インタビュー	企画委員会若手パワーアップ小委員会によるインタビュー。土木技術者としてのキャリアを中断した経験のある人にその経緯を聞く。外部のウェブメディア「施工の神様」に公開。	5	○	--	--
3	行動する技術者たち	教育企画人材育成委員会行動する技術者たち小委員会による、先駆的な活動を行なった技術者に対するインタビュー。ウェブ版、書籍版がある。	47	○	--	--
4	平成30年度会長情報発信プロジェクト	第106代会長小林潔司氏によるインタビュー。グローバル、他業界から見た土木への助言を聞く。	26	○	-	-
5	女性土木技術者のオーラルヒストリー	ダイバーシティ推進委員会による、初期の女性土木技術者へのインタビュー。キャリア継続に当たっての課題と解決の方法を聞く。	4	いずれの記録もあり、公開方法を検討中		
合計			105	--		

注 1) 媒体のうち○は何らかの記録が公開されていること、--は確認できないことを示す。

キーワード インタビュー、オーラルヒストリー、アーカイブ、人に関する研究、参加者の同意、JSCE2020-2024
 連絡先 〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1-M1-20 東京工業大学 kiko.yamada@plan.cv.titech.ac.jp

3. インタビュー調査の課題とその影響

土木学会の委員会による5つの事例(表-1)から次の3つの課題を把握した。(課題1)インタビュー実施, 記録の方法が不明確: 実施や記録の方法が公開されていない。また, どのような記録が残されているかも示されていない。特にトランスクリプトの存在は不明である。このために, 分析等の二次利用が困難である。(課題2)話者との権利関係が不明: No.5では書面による同意文書を取得したが, No.2の一例(著者の一人が話し手として参加)では, 書面による合意は行われていない。土木学会事務局でも特段の整理は行われていない。研究機関では人を対象とする研究について厳密な実施手続きを定めている(例えば東京工業大学²⁾の場合, 研修の受講, 審査委員会への事前審査が義務付けられる)が, 事例が学術目的で実施されていないことが原因として考えられる。(課題3)データの蓄積, 利用の方法はまちまち: 実施主体はいずれも土木学会ではあるが, データの保管場所は統一されていない。No.5では当該インタビューのために2TBのクラウド型データサーバを契約している。このため担当者が変わることや予算が措置されなくなった場合に散逸する可能性がある。

4. 提案

前節に示した課題を解決するために, 次の3つの方策を提案する。(提案A)インタビューの手順を標準化する: インタビューの実施とデータの保管方法, インタビューに先立って話し手より取得する同意書等について, 最小限の範囲で標準化する。手順を標準化することにより実施に当たっての準備が容易になる(課題1, 2)。(提案B)インタビュー実施者を養成する: 前出の標準化の内容を前提として, 聞き手に加え, 進行, 撮影などを担当する実施者を対象とした研修プログラムを整備する。新たにインタビューを実施する主体を支援すること, インタビュー記録の品質の確保につながる(課題1)ことに加え, 話し手の権利を保護することにつながる(課題2)。ダイバーシティ推進委員会では, ユーザー調査を専門とする実務者が開発した聞き手の研修プログラム¹⁾を実施した。また, 東京工業大学等の事例を参考に同意書を作成し, 話し手より取得している。(提案C)継続的なアーカイブの場所を作る: 土木学会が主体となってアーカイブの場を用意することで, インタビュー記録の散逸を防ぎ, 二次利用を容易にし, また個別対応によるコストを低減することができる(課題3)。海外のアーカイブの事例は御厨³⁾(第5章), 梅崎⁴⁾により紹介されており, 代表的なものは7,000を超える音声記録と70万ページの速記録, 記録を題材に執筆された論文を収蔵する米国コロンビア大学⁵⁾, 音源を収蔵, 公開する英国図書館⁶⁾がある。我が国にも日本美術⁷⁾, 労働史⁸⁾, ゲーム¹⁰⁾などを題材とするアーカイブが確認できるが, いずれもテキストのみを格納, 公開している。

5. 結論

本報告では, 土木学会によるインタビュー事例を公開されている情報から概観して3つの課題を考察し, 3つの解決策を提案した。土木学会ではダイバーシティ推進委員会を中心としてJSCE2020-2024のプロジェクトの一つ「土木D&I 2.0へむけた活動の場とツールをつくる」を実施する。本提案が活用されることを期待する。

謝辞 本研究はJSPS科研費19K15109の助成を受け, 土木学会ダイバーシティ推進委員会とともに実施した。

参考文献

- 1) 山田菊子, 尾形慎哉, 尾川七瀬, 米山賢: 技術者のキャリア継続における課題抽出のためのインタビュー調査法の開発, 第60回土木計画学研究・講演集, 富山, 2019.
- 2) 東京工業大学における人を対象とする研究の実施に関する規則。
http://www.somuka.titech.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/x385RG00001032.html#e000000263 (2020年3月31日閲覧)
- 3) 御厨貴: オーラル・ヒストリー--現代史のための口述記録--, 中公新書, Vol. 1636, 中央公論社, 2002.
- 4) 梅崎修: 英米のオーラルヒストリー・アーカイブから何を学ぶか, 動向レビュー, カレントアウェアネス, CA1890, No. 333, 2016. <https://current.ndl.go.jp/ca1890> (2020年3月30日閲覧)
- 5) Oral History Archives, Columbia University Libraries. <http://library.columbia.edu/locations/ccoh.html> (2020年3月30日閲覧)
- 6) Sounds, Oral History, British Library. <https://sounds.bl.uk/Oral-history> (2020年3月30日閲覧)
- 7) 日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイブ. <http://www.oralarthistory.org> (2020年3月30日閲覧)
- 8) 梅崎修: 労働史オーラルヒストリー・アーカイブの試み: 映像化の取り組みと資料の利用可能性を中心に, 社会政策, Vol. 7, No. 3, pp. 102-112, 2016. https://doi.org/10.24533/spls.7.3_102
- 9) 労働史オーラルヒストリープロジェクト. <https://shaunkyo.jp/oralhistory/index.php> (2020年3月30日閲覧)
- 10) オーラルヒストリー, 立命館大学ゲーム研究センター. https://www.rcgs.jp/?page_id=204 (2020年3月30日閲覧)